

すべてはこの一冊の本から はじまった

シンガポール。私にとつて全く未知の国でした。未知というより、無知と言ひ換えた方が適切かもしれません。失礼な話ですが、「シンガポールって何があるんだろう、マライオン」という自問自答しか出来ない、最低の知識レベルでした。

そんな私が何を目的にシンガポールへ行ったのか？それは勿論、今回もご多分に洩れず、哪吒が目的でした。

そのきっかけは二冊の本でした。アラン・エリオット著『シンガポールのシャーマニズム』（春秋社、1995年発行）。かつて大学生時代、道教や民間信仰系の本を読みまくっていた頃に出会った本です。アラン・エリオットという研究者が、シンガポールのシャーマニズムについて、寺院等をフィールドワークをした詳細な報告



が載った本で、なかでも、シンガポールの「青天宮」という孫悟空の廟について、かなり頁数を割き、詳細なフィールドワーク

の成果が紹介されていきました。

孫悟空の寺院を誰が信仰し、

どの様な組織が支え、

どの様な時に

どの様な

様に

な方法でどんな儀式をとり行うのか、その地に行ったことが無い私が読んでも、目に浮かんで想像する事が出来る様な良書だったのです。

また、シンガポールで信仰されている神として、孫悟空はもとより、関羽、哪吒が紹介されていました。この本によると、シンガポールにおいて哪吒は「三太子」という呼称で呼ばれています。三太子を降霊した「タンキー」とよばれる霊媒が、狂った様に踊る様子や、新興の三太子廟の信者の確執の様子等がいきいきと報告されていました。私はこの本によつて、シンガポールと哪吒というキーワードが結びついたのです。

さて、その様な訳で、今回の旅の目的は、以前アランエリオットの本で読んだシンガポールに於ける哪吒の信仰の一端に触れたい！というものでした。私は唯一の手がかりのアランエリオットの本を携え、長年の未知と無知の国であったシンガポールへ旅だったのであります！